

経営組織論		教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、経営・経済コースの 選択必修科目 教職科目	科目ナンバリング	23201202 25320224

1. 授業のねらい・概要

企業などの組織の基本的な構造やマネジメント方法が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。具体的には、現実の企業内の組織構造、経営組織のデザイン、経営組織のマネジメント、組織形態の変革、経営組織に対するガバナンスという5つのパーツから、経営組織論の基本領域を学ぶ。

2. 授業の進め方

基本的には、配布資料や参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、授業の開始時に、その日の授業で学習する内容に関して2問程度練習問題を提示し、集中して考える時間を設ける。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. インセンティブを高める賃金体系と退職金制度
2. 経営組織の基本型	10. 確定給付企業年金と確定拠出年金
3. 経営組織のデザイン（特に本社機能の配置）	11. 取締役の責任と義務
4. 経営組織のデザイン（特に事業部制の活用）	12. 株式会社の機関設計
5. 組織をデザインする上での検討要素	13. 経営組織のダイナミックな変革
6. 組織のマネジメントとリーダーシップ	14. コーポレート・ガバナンスとリスク管理
7. 組織内・組織間のコミュニケーション	15. 全体のまとめ
8. 従業員のインセンティブを高める仕組み	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業終了後、授業中に提示された練習問題を中心に、授業の内容を自分なりに整理してまとめておくこと。こうした復習のための準備学修には、最低1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験終了後、各自に模範解答を配布するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

経営組織論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、持株会社設立に代表される組織形態の変革や、不祥事発生後のガバナンス強化に取り組む動きなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しないが、授業の進捗に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

基本的に経営学基礎で学んだ知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論と経営戦略論は会社経営の両輪となるので、できればセットで受講することが望ましい。